

きちんと手洗い、していますか？

新型コロナウイルスが、まだまだ大流行しています。予防法としては、

- ①換気の悪い密閉空間 ②多数が集まる密集場所 ③間近で会話をする密接場面

を避けるようにと言われますが、基本は手洗いです。しっかり手洗いを行いましょう。

正しい手の洗い方

手洗いの前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪は外しておきましょう



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

【ご寄附】心温まるご寄附を賜り、厚くお礼申し上げます（令和2年2月1日～29日）

皆様から賜ったご寄附はご厚志に沿い、「地域貢献事業」としてさせていただいております。

匿名希望 1名様

寄附金合計額 3,000円

月刊☆こうほう

令和2年4月1日 第58号



新しい季節になりました



こうほうえんでも、3月20日に、新卒者の入社式がありました（詳細裏面）。向原にも数名配属されますので、温かい目で見てください。

発行元：社会福祉法人こうほうえん
ヘルスケアタウンむかいほら
〒173-0036
東京都板橋区向原3丁目7番7号
(コーシャハイム向原7号棟内)
電話：03-5917-0753(代)
FAX：03-5917-0756

さくらについて

この時期になるとテレビで上野や全国各地のさくらの開花の様子が放送されていますね。今回は「さくら」について調べてみました！！

- ・さくらは「バラ科」の植物として分類されています。
- ・日本には200～300ものさくらの種類があると言われていたますが、野生で咲いている桜は10種類しかないそうです。その他はすべて人の手などで作り出されたもの（園芸品種といわれるもの）なんだそうです。開花予想で主に使われている「ソメイヨシノ」も園芸品種。ちなみに「ソメイヨシノ」は、江戸時代の末ごろ、江戸染井村（今の豊島区）の植木屋さんが、「オオシマザクラ」と「エドヒガン」という品種から作って、「吉野桜」として売り出したもの。花の咲き方がとても美しかったうえに、育成も早かったため、瞬く間に日本全国に広まったとされています。そんな昔からさくらの品種を掛け合わせていたのですね。日本人のさくら好きは今も昔も変わらないようですね。



7号棟2階事業所からの眺め



向原団地内 通称バラ公園♪

ボランティアの皆様
ありがとうございました

- ・傾聴ボランティア
駒野 純子 様





社会人としての一步を踏み出す 令和2年度「新規学卒者採用職員」入社式

「令和2年度新規学卒者採用職員」入社式は3月21日、新型コロナウイルスの感染拡大する中、長時間にわたり密集した場所での会話、交通機関利用した移動による感染を予防するため会場を鳥取地区と東京地区に別け、時間を短縮し開催しました。また、入社式後に予定していた「第24回こうほうえん研究発表会」は、6月30日に延期しました。

この度、新たな仲間として38名（介護職員14名・セラピスト3名・保育職員19名・その他2名）の新人社員を迎えました。

～歓迎のことば～

「失敗を恐れず、挑戦することで、おのずと結果はついてきます。学ぶ姿勢を忘れずに挑戦する気持ちを持ちながら日々を過ごしていただきたい」

永澤竜次 保育士（キッズタウン下落合保育園）



～新入社員決意表明～

「法人の互惠互助の精神のもと、「地域に開かれた、地域に信頼される」良いサービスが提供できるよう努力し、職員の皆様にご指導を受けながら成長していきたい」

山根拓也 介護福祉士（よなご幸朋苑特養）



あの人 この人

人間らしさを尊重し平等な 関係性を築く

～認知症ケア ユマニチュード～

ケアホーム西大井こうほうえん

田中 とも江 施設長

- ・一般社団法人日本ユマニチュード学会 理事
- ・ユマニチュード認定エグゼクティブ
インストラクター



抑制廃止の先駆け

准看護婦として精神科病棟で働いていたときに、患者さんが縛られ、床ずれだらけの状態を目の当たりにして何もできませんでした。そこで、看護の仕事に誇りを持ちたいと思い、看護婦の資格をとり、精神科認知症病棟に就職。“抑制する”ことが、人権侵害であるだけでなく、医学的にも悪い結果（抑制の悪循環）を引き起こしていました。1986年半ばから“縛らない看護”に取り組み、日本の身体拘束抑制廃止の先駆けとなりました。

2008年、ケアホーム西大井こうほうえんの施設長に就くも、“良いケアとは何か”を模索し続け、「ユマニチュード」に出会い、その導入・普及を図っています。

イヴ・ジネストさん（ユマニチュード提唱者）との出会い

抑制廃止をして物を取り払い、環境面における指導もしていたけれど、自分たちが行ってきたケアに満足・納得はしていませんでした。日頃から、施設長として現場のケア者と「良いケアって何だろう」と悩んでいた頃に、イヴさんの講演に誘われて行ったのが初めての出会いでした。講演の後、看護介護の現場では未だに抑制が無くないことについて質問したところ、「抑制廃止をしたいからユマニチュードをするのではなく、人と人との関係性をつくり、コミュニケーションを介在した技術の中で抑制は無くなる」と答えをもらいました。この技術こそが、精神面と技法を融合したものだと気づき、納得し、ユマニチュードを取り入れました。

ユマニチュードの「哲学」に魅せられて

すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等です。「ケアをする人」という立場ではなく、「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを伝えることが重要だと考えています。



「見る」「話す」「触れる」という基本行為を交互に演習する